

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ(高津①)		
所在地	鳥根県益田市高津四丁目11番16号		
自己評価作成日	2019年9月17日	評価結果市町村受理日	令和元年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成元年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の入れ替わりがなく、同じ顔触れでいることが安心につながっている。ホームに気軽に來ていただき、ゆっくりと時間を過ごすことができるような雰囲気作りを大切にしている。いろいろなステージの方がおられる中、楽しいと感じる時間を多く持つことができるよう催し物を企画したり、楽しみの一つでもある食事に季節の物を取り入れるなど工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠くに日本海を眺める高台の住宅地の一角に位置しており、開所からの年数も経て歴史もある。すぐ近くに地区の集会所があるなど環境にも恵まれていることから、運営推進会議もこの場所で開催されるなど、地域との交流は大変盛ん。数年前には入所者の入れ替わりがあったが、最近では全体的に介護度が軽くなり安定してきており、地域の予防事業への参加もある。経験豊富な職員が多く、異動等も少なく働きやすさもあり、勤務形態の違う職員間もチームワーク良く保たれている。今後に於いても、既存の建物を利用したユニットに新しく建てた部分を含めた双方の建物の利点をうまく利用し、交流の機会を増やすなど、より精神面の刺激になるような取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	身近な課題に置き換え毎月の職員会議で話し合いを行っている。話し合う内容を細かくすることで意識して身につけることができている。	グループ全体としての理念を掲げてはいるが、漠然とした難しさがある為、身近な課題に置きかえて1か月、3か月と期間を決め、振り返りを行い次に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動に参加したり、ホームの行事に招いたりし、交流の場を増やすように努めている。	中学生の職場体験や高校の介護実習の受け入れ、養護学校では就活の為の体験、福祉専門学校の実習生の受け入れなど積極的に行っている。実習を機に就職に繋がったケースもあり、最近はボランティアも増えてきており地域との交流は多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症ケアの実践を話したり、活動の場に参加し様子を知っていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で家族や地域の方に普段の様子や取り組みを伝えている。地域の方からいただいた意見を元に計画を立て花作りを行う予定である。	利用者家族の参加はあまり多くはないが、地域からは福祉推進委員や民生委員、市の担当課からも参加を得て定期に開催。年に1回は警察署からも出席してもらい、離設者や行方不明者の対応について話を聞いたり、市からは高齢者の現状を聞くなど内容を変えて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で情報を交換し、助言をいただいている。認定更新の機会等には具体的な状況を伝え連携が図れるよう努めている。	運営推進会議には市からは毎回参加がある。高齢者福祉課には、更新時の認定調査時の関わりや、保険関連の相談等で話をしたり包括からは施設の空き情報の問い合わせがあったりと、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全面を考え施錠している現状ではあるが、その状態が当たり前になることがないよう身体拘束防止委員会や職員会議などで振り返りを行っている。	帰宅願望のある方に対して安全面を優先して玄関の施錠を実施している現状ではあるが、虐待を含めて年に2回の自己チェックを行ったり、内部研修での勉強会も継続している。施錠が当たり前のことにならないよう改善していく意向を持っている。	不適切ケアについての認識深めることで改善への対応を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修受講機会を確保し、学ぶ機会を持っている。不適切なケアや尊厳を意識しない対応が虐待につながるという認識を持ち、話し合いを続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要な場合の対応は主に管理者が行うため他の職員の理解は十分とは言えない。研修への参加を続け理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項に沿って、説明を行っている。改定の際にも説明をし、了解いただいた上で文書による同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご意見やお話を聞かせていただいている。家族アンケートなどで事業所に意見、苦情を知らせていただいている。	毎月利用者の様子を伝える写真に直筆の一言を添えた手紙を送っている。ユニットごとに年に1回の家族会を実施し意見を得る機会としている。家族会ではムース食の試食や施設での出来事を伝えるなど、毎年その年に合わせたテーマを掲げ交流に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のミーティングや何気ない会話の中、職員会議などで上がった意見や要望はホーム長会議の場で法人に伝えるようにしている。	毎日のミーティングや月の会議の場でも意見を聞くようにしており、年に2回は自己チェック表を基に個別面談も行っている。勤務形態が違うこともあり、職場環境が良くなるよう年に2回親睦会も継続し行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援(交通費や研修費の補助)を行い、取得後は資格手当として給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況、力量、段階に応じた研修に参加できるよう引き続き努力していきたい。研修後は学んだことを現場に反映できるような機会を作り、実践を通してのトレーニングを進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の認知症ケアネットワークの会議や研修に参加している。担当者は市内全グループホームの会議に出席、年2回行われる交流会には職員も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前訪問で面談を行いご本人の状況や生活状態の把握に努めている。ご本人の思いをできるだけ尊重し、不安を軽減できるような説明を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経過等の傾聴に努め、家族の思いを受け止めつつ、今後に向けて要望などをお聞きしながら話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の窓口として来所された時には細かく話を聞き個々の相談に応じている。場合によっては情報を提供したり、他のサービスにつながるよう、話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアになってしまっている場面がある。様々な場面において双方向の関係性であるという理解を意識付けるような振り返りを定期的に行っていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	住む場所は離れてはいても、情緒的に本人を支えることができるのは家族であるとの認識を持っている。時には受診をお願いしたり、電話で話していただくなど家族ならではの支援もしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客時などは各居室にてゆっくりと過ごしていただいている。新しい生活の場であるホーム周辺の方々との関係作りも大切にしている。	友人同志で乗り合わせて面会に来るケースもあるが、ここでの新たな馴染みの関係を作ることも必要と考え、近所の方々に顔を見て声をかけてもらえるような関係作りのため、集会所のいきいき体操や手芸の会等にはできるだけ参加するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については双方の思い、段階の理解に努めながら利用者同士で作り上げていく関係を見守っている。時には衝突を回避するための場の調整を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームから他へ生活の場を移される時には、アセスメントや支援状況などを詳しく伝えるようにしている。事前情報以外の問い合わせにもお答えしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や言動、会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方、希望の把握に努めている。表明が困難な方の場合まずは本人本位に検討する努力をしている。	なかなかはっきりと自分の思いを言う方がすくなくないが、聞くことを基本として話をする時間をできるだけ持つようにしている。日々の様子からも思いをくみ取るようにして、職員間で共有するよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできるだけ情報を収集するようにはしているが不十分なことが多い。入居後も継続してご本人やご家族との会話の中から把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや表情、言動などの様子から体調を把握するようにしている。気の進まないことや苦手なことは強要せず、できるだけ気持ちを尊重するようにしている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員会議で意見交換を行い計画作成につなげている。	家族が遠方や仕事等で参加が難しい場合は電話で意向を聞くようにしているが、できるだけ本人に家族関係者の参加で話し合うようにして、介護計画を作成している。定期的モニタリングも行き変更につなげるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は毎日のミーティングやその時々で情報を共有し介護記録に記載している。介護記録をもとに月末に個々の評価を行い、介護計画の見直しにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化はほとんどなされていない。しかし必要に応じて、主治医に相談し専門医で診ていただいたり、状態に応じ訪問看護や訪問歯科などを利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防避難訓練を地区の方と一緒にいることを続け顔を知っていただき、地域で安全に暮らすことを支えていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での診療を可能な限り継続している。状態に応じて主治医の変更を行う場合はご家族、ご本人、主治医と話し合いのうえ変更している。	往診可能な協力医を3名確保しているが、以前のかかりつけ医を継続することも可能なため、入所時にその旨説明し選んでもらうようになっている。協力医には休日夜間等でも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム勤務の看護師に日常での変化や気になることをその都度伝え相談している。看護職員がいない時は介護職員の記録をもとに連携を行い、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでのADLや生活の様子などを伝えるようにしている。退院時には状態の変化に応じて病院関係者と情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を想定してなるべく早い段階から支援の方向やホームでできる最大のケアについて話をさせていただいている。ご本人やご家族が今後についてゆっくりと考える時間が持てるように努めている。	全体的に入所者の介護度は軽くなってきていることもあり、現在は重度の方は無いが、段々と悪くなってきている方があり、看取りに向けての対応を検討する必要性を感じている。家族からの希望もある為、今後主治医を交えて話し合いを持ち進めていくこととしている。	幅広い研修を行う事で、終末期に向けた取り組みを検討いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は2年に1度救急救命講習を受け、内部研修で急変時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し訓練を行っている。地区の災害避難訓練に参加した気づきや運営推進会議での助言を避難対応に活かせるよう検討している。	自然災害については可能性が少ない立地条件のため、基本はほかの場所への避難は想定していないが、火災を主に日中、夜間に分けて訓練を定期的に行っている。地区の関係者の参加もあり、消防署の指導受け実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに配慮し働きかけるように心掛けている。声の大きさや対応など、自分に置き換えて考え支援している。	日々の生活の中で忘れがちなため、ミーティングや会議の場で振り返るようにしている。自分に置きかえて嫌なことはしないを、徹底するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	短期の目標を立て支援を行った。いろいろな場面でご本人の意思を確認する声かけが身についてきている。ご本人の動き出し、発語を待つ支援を今後も意識していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者のペースを優先するという事は難しいが、できるだけご本人のペースで行動されることを尊重し、柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方はされている。身体の状態に合わせた衣類の中にもご本人の好みを活かせるよう考え調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる力に応じて食事の準備や片付けを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気作りを行っている。	野菜の皮むき等の下準備や食後の食器洗いを手伝える方はいるが、以前から比べると少なくなってきた。料理の際の音や臭いなど感じる事が重要と考え、傍で調理した物を皆でいただき、食材の買い物にも1日おきのペースで車で一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や体調を把握し栄養バランスを考えた食事の提供を心掛けている。個々の状態、好み、食習慣などを検討しそれぞれに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の気持ちを配慮しつつ一人ひとりの力に応じた支援を行っている。義歯の方は寝る前に洗浄し、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態から敏感に察知し身体機能に応じて介助を行っている。羞恥心への配慮について今後も努力を続けていきたい。	個々に合わせることを基本とし、見守り声かけを行っている。声かけで動かない人の場合もタイミングを見て対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬と併用しながらではあるが自然排便を促すために飲みやすい水分を飲んでいたり、乳製品、発酵食品を摂取していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望をすべて聞き入れることは難しいができるだけ気持ちよく入浴していただけるよう柔軟な対応を心掛けている。	家庭浴槽の為1対1を基本とし、週に2回のペースで入浴できるようにしている。外出とかの行事に合わせて、午前午後の入る時間や日にちを調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状態を把握し状態に応じ休息をとっていただいている。その方の生活に応じた睡眠パターンの理解に努め、安心して眠っていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方により効果的であるように症状や状態を細かく主治医に伝えるようにしている。薬についてわからないことや不安なことは薬剤師に尋ね確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じた役割、楽しみごとを見つける努力を続けている。力を発揮していただく機会を日常的に持てるよう、継続し働きかけていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿っての外出支援は十分とはいえないが希望、要望を伝えやすい雰囲気作りを行っている。機会を多く持つように心掛け取り組んでいる最中である。	外出行事は計画的に行っているが、普段は食材の買い物や近所の散歩、ドライブ、集会所に出かける機会をできるだけ増やすようにして、外気や外部の方とのふれあいの機会としている。その他2つのユニットを歩き来することで、精神面の刺激となるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は難しい方がほとんどである。買い物時には支払いをお願いするなど、お金を使う機会を意識し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物などが届くと、お礼の電話を一緒にしている。電話をかけたいと言われる時にはご家族の協力のもと可能な限り対応している。家族へのお便りに一言でもと声をかけ、書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくためにその時期にあったディスプレイなどを一緒に行うよう努めている。得意な方には玄関に季節の花を活けていただいている。	高台にあり遠くに海を見ることができ景色は良い。中庭を囲むように廊下居室があり明るく、草木から自然を感じることができる。住宅地の中のため道路に面しているが、車の通りも限られ静か。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やダイニングなど共有空間には椅子を配置し、どこでも会話できるようにしている。利用者同士の関係性を配慮し食事席などの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご本人にとって使いやすく居心地の良いスペースとなるように整えている。ご本人の馴染みの物を持ってきていただく声掛けを行っている。	テーブルに椅子、テレビ、服かけ、大き目の鏡等以前使っていた物をたくさん持ち込んでいる方はあるが、反対にあまり物を置かない方もある。ベッドを含めて安全に動けるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などの工夫は行っているが利用者によっては理解が難しい方もおられる。その都度方法を検討している。		